



# 羽田ミヤコタナゴ通信



## 通信

月日が流れるのも早いもので、平成29年が始まりすでに2ヶ月が経過しました。昨年「羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた協議会」に変わり、「羽田ミヤコタナゴ通信」を発行させていただいております。思い起こせば6年前の平成23年1月に協議会の設立準備が始まり、今日に至っております。

当時はミヤコタナゴの視点で物事を考えることが当たり前でしたが、「ミヤコタナゴが生息できる環境をまずは整えよう」「出来ることからやってみよう」との意見が出始めた頃でもありました。ミヤコタナゴ単体で物事を考えれば、そのような発想はなかったかと思えます。「地域の宝ものとして、ミヤコタナゴを復活させる」との強い思いが、そのような考えになったのだと思えます。

近年、農村の良さが再認識されつつあり、農村の中の生き物が注目を浴びるようになってきました。昔の農村風景や文化、生活が地域資源として見直され、それに係わる生き物たちも注目されるようになってきました。

農村地域で見られる生き物の多くが、営農活動と密接に関係していることは、ここ最近まで気がつかれていませんでした。「当たり前にいるから」多くの方はそう考えていたかと思えます。羽田のミヤコタナゴもそうであったと思えます。一度失われた生き物を復活させようとするのは、非常に難しいかもしれませんが、羽田では、再導入に向けた作業が一步一步前に進んでおります。

日本全国至るところで同じような課題を持っている地域がありますが、羽田から全国へ「農村と生き物との復活物語」を発信できればと考えております。

## トピック

- 1 羽田沼周辺の過去から現在
- 2 専門家会議及び地元打合せの結果報告
- 3 ミヤコタナゴ再導入に向けた目標設定
- 4 本年度の活動を振り返って
- 5 来年度の活動について

